

胃腸の強弱によりかぜ薬処方異なる

Q 大学入試を控えた十八歳の長男が、この季節になるとよくかぜをひき熱を出して体調をくずします。以前、総合感冒薬を飲ませたところ、頭がボーツとして模擬試験で実力を発揮できなかつたとのこと。漢方によいかぜ薬がありますか。

A 漢方のかぜ薬は、胃腸が丈夫な子と胃腸の弱い子で処方が異なる。またかぜの初期・中期・後期と時期によっても処方が異なる。質問者の長男は胃腸が丈夫という。この場合のかぜ初期の漢方薬としては葛根湯（かつこんとう）が最も適している。葛根湯は発汗作用があり、かぜウイルスを排除するための種々の仕組みを活性化する。

麻黄（まおう）というエフェドリンを含む生薬のために、咳（せき）を抑える作用とともに中枢覚せい作用があるので、服用しても抗ヒスタミン剤のように眠くならない。むしろ頭がしやきつとするから勉強がはかどる。以上の点から胃腸が丈夫な若年者のかぜの常備薬として用意しておき、かぜをこじらせないようにしてあげるとよい。

一方、胃腸の弱いタイプは葛根湯を飲むと胃痛・食欲不振・不眠などを引き起こす。この場合は平素から小建中湯（しょうけんちゅうとう）を服用させて体力をつけ、かぜをひいたら桂枝湯（けいしとう）や香蘇散（こうそさん）を飲ませ、消化のよいものを食べて暖かくして休ませるのが一番である。